

『主催・東急財団五島記念文化賞オペラ新人賞研修成果公演』

「ヘンゼルとグレーテル」』

《概要》

東急財団主催による第 28 回（平成 29 年度）五島記念文化賞オペラ新人賞スタッフ部門（コレペティトゥア）を受賞した原田太郎の海外研修成果発表公演。E.フンパーディンク『ヘンゼルとグレーテル』の二台ピアノ連弾によるドイツ語・全幕上演。公演に向けてコレペティション稽古をはじめ、二台ピアノ版楽譜補筆、字幕制作を行い、公演では指揮を担当する。

《目的・達成したい成果》

私は 2014 年から 4 年間、オペラ指揮者の必須条件とされている「コレペティション」（ピアニストとして音楽のコーチングをすること）を、オーストリア・グラーツ演劇芸術大学大学院指揮科でヴォルフガング・ボージチ先生ご指導の下、学んでまいりました。今回研修成果発表として取り上げる、E・フンパーディンク『ヘンゼルとグレーテル』は、グリム童話の原作を基に作られたオペラ作品で、「家族愛」をテーマとした、音楽も舞台もファンタジーあふれる魅力的な作品です。この作品自体の存在価値とともに、作曲家がバイロイト音楽祭で R・ヴァグナーの助手を務めたという経緯や、若き R・シュトラウスによってこの作品が初演されたことなど、ドイツオペラの変遷という歴史的な視点から見ても、まだまだレパートリーの少ない私にとって、まず勉強するのにふさわしい作品だと思い、成果発表の演目としてこの作品を選びました。凶らずも、今年はフンパーディンク没後 100 年。2020 年世界はコロナウイルスという未曾有の災いを被りました。"Wenn die Not aufs Höchste steigt, Gott der Herr die Hand uns reicht!"（最も困難を迎えたときに、神は私たちに手を差し伸べてくださる!）オペラはこんな言葉で締めくくられています。台本を読み進めるうちに、作品が語り掛けてくるメッセージにドキッとしました。今回の公演に際し、コレペティ稽古、指揮の他、ピアノ連弾譜の補筆、字幕翻訳にも挑戦をいたしました。多角的な視点から一つのオペラ作品にアプローチし、言葉と音楽の結びつきを表現に活かせるような公演にしたいと思います。

《スケジュール》

公演日：2021 年 9 月 19 日（日） 開演 13：00

会 場：渋谷区文化総合センター大和田さくらホール

2021 年 8 月上旬 コレペティション稽古開始

2021 年 8 月中旬 音楽稽古・立ち稽古 開始

2021 年 9 月 上旬 二台ピアノ練習 開始

2021 年 9 月 17 日 通し稽古

2021 年 9 月 18 日 GP（大和田さくらホール）

2021 年 9 月 19 日 本番

《プロフィール》

原田 太郎 (指揮者)

慶應義塾大学文学部哲学科美学美術史専攻卒業。在学中は三宅幸夫氏のもとで音楽学を学ぶ。東京藝術大学音楽学部指揮科卒業。卒業時に同声会賞を受賞。

藝大卒業後に渡欧し、オーストリア・グラーツ国立音楽演劇大学指揮科でヴォルフガング・ボージチ (オペラコレペティション・オペラ指揮)、ヨハネス・プリンツ (合唱指揮)、ヴォルフガング・デュルナー (オーケストラ指揮)、カースティン・ヴェルナー (舞台ドイツ語) の各氏に師事。

平成 29 年度第 28 回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞

2016 年 ドイツ・ハイデルベルク歌劇場コレペティートル (非常勤)

2018・19 シーズン イムリング音楽祭 コレペティートル／合唱指揮 (常勤)

これまでにコレペティートル・音楽アシスタントとして、リリックオペラスタジオワイマール (魔笛 2015)、ハイデルベルク歌劇場 (さまよえるオランダ人、キスミー・ケイト 2016)、グート・イムリング音楽祭 (トゥーランドット、ドン・ジョヴァンニ、こうもり、ミュージカル・シュレック 2019)、新国立劇場 (高校生のためのオペラ鑑賞教室 蝶々夫人 2017, こうもり 2020、ヴァルキューレ 2021) の制作に携わる。また、グシュタード音楽祭 (スイス)、ザルツブルグモーツァルテウム夏期講習会 (オーストリア)、びわ湖ホール沼尻竜典のオペラ指揮セミナー (日本)、シュチェティン古城オペラ指揮講習会 (ポーランド)、イムリング音楽祭 (ドイツ) などで指揮者としての研鑽を積んでいる。